

愛は南から — 町に響く 素敵な人たちを紹介します

国体を一つの契機に サッカーを盛り上げていきたい

南宇和サッカー協会 会長 齋藤 武俊さん



きになつてもらおう」こと。自身が指導した選手がその後サッカーを続け、活躍する姿を見ることを楽しみにしています。長年指導を続けられている理由は「自分自身も楽しんでいるから」。愛南町から日本代表選手を輩出することが夢だと言います。

南宇和サッカーの課題

「子どもが減っているし、サッカーをする子も減ってきている」と齋藤さんは課題を挙げます。選手の人数が少ない中で、一人一人をしっかりと指導し、徹底して育成することが重要と言います。

サッカーをする環境は整っている

南宇和サッカー協会では、保育園児から社会人までさまざまな大会を開催し、技術向上やサッカー文化の定着を図っています。「地域の方々も応援してくれるし、この地にはサッカー文化が根付いている。サッカーをする環境は整っている」と地域の特色を話します。

サッカーを好きになること

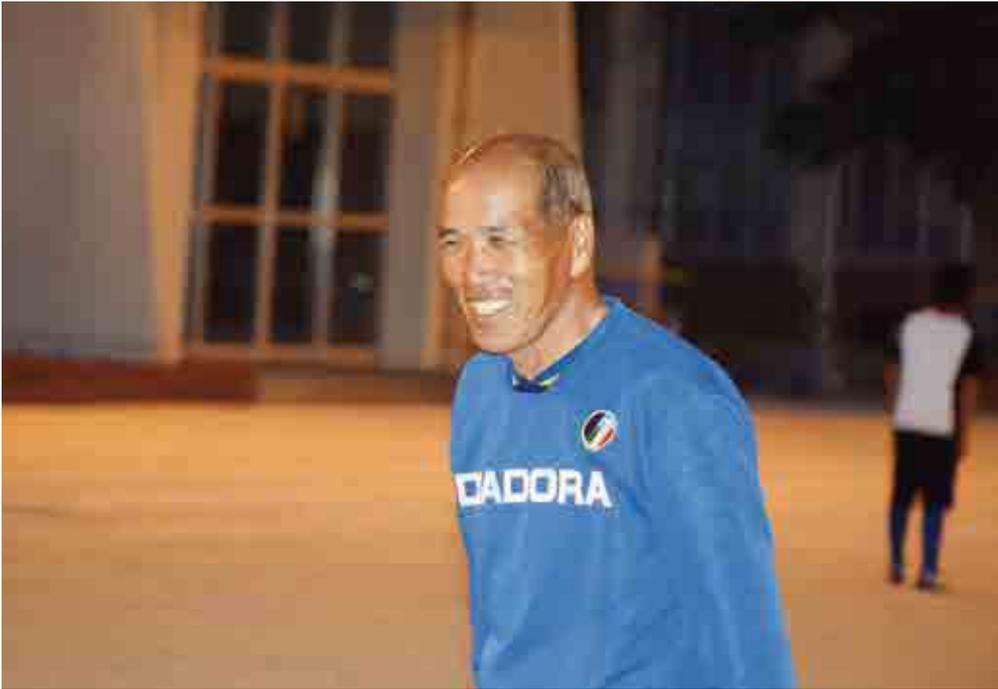
指導をする上で心掛けていることは「サッカーを楽しみ、好

望むのは南高サッカー部の活躍

今一番に望むのは南宇和高校サッカー部の活躍。「全国大会に出場すれば、子どもたちが夢を持つことができる。もう一度南高が全国の舞台に立てるよう、我々のような指導者がしっかりと指導して、優秀な選手を高校に送り出さなければならぬ」と考えています。

国体を一つの契機に

えひめ国体では愛南町で女子サッカー競技が行われます。会場となるあけぼのグラウンドは改修を終え、施設も整いました。「たくさんの方にサッカーの試合を見てほしいし、町民の方にもさまざまな形で参加してもらいたい。国体を契機に、南宇和のサッカーを再度盛り上げていきたい」と意欲を見せました。



1950年生まれ。平城サッカークラブ監督。御荘中学校でサッカーを始め、南宇和高校、南宇和クラブ（社会人チーム）で選手としてプレーした後、指導者の道へ。平城サッカークラブを立ち上げ、30年以上にわたり指導を続けている。

今年の10月に開催される愛顔つなくえひめ国体の愛南町実行委員も務め、開催準備に積極的に参画している。